

第3回 すこやかライフフォーラム レポート

平成22年9月19日（日） 13時～15時
青葉区役所後援

「笑いの新常識－科学者と落語家の不思議なコラボ」

ノーベル賞候補の世界的科学者である村上和雄筑波大名誉教授からは「遺伝子ONの生き方」をやさしく解説して頂き、落語家の三代目桂伸治師匠からはその聴きやすい語り口で大いに笑わせて頂きました。

3連休の中日、予想を超える550名の参加があり、その人気の高さに驚きました。講演前に昨年ご講演を頂いた増井園長への黙とうと3人の顧問の紹介がありました。



大入袋が出そうなほどの会場に笑いの渦が何度も起きた楽しいひとときでした。

村上先生は、科学に身を置きながら哲学、宗教、宇宙をも包み込む独自の世界観を誠実に少しシニカルにかつ面白く展開されました。

運転手との講演会替え玉作戦（何度も同じ講演をしていたので、茶目っ気を出して、いつも聞いている運転手に代わりに講演してもらったこと）や、知人の製薬会社社長は一切薬を飲まないなど最初から場内は大笑いでした。笑いこそ副作用のない特効薬であり、その証明に吉本興業との糖尿病の共同研究の成果を説明されました。

どの国にも神話の時代から笑いがあり、物心のつかない幼児すら何がおかしいのかわからず笑って周りを楽しくさせているというお話に、人は笑うことで救われていると実感しました。

一方、科学者の喜びは知らないことを知ることだが、有能な科学者が集まってもゲノムの地図通りにはヒトは作れないと人の神秘性を説かれました。

印象に残ったのは、目に見えていない無駄だと思われるもの、無関係と思われているもの、眠っているものが実は重要であるということ。そしてそこにスイッチが入るのは、ピンチやプレッシャーがかかった時ということ。大きな力を頂けたのは私だけではないように思います。



開演前

